

分析条件について

分析条件の設定 [1/2]

基本設定		フィルタ設定	
解析モード	1	HPF	1 0
周波数レンジ	2	LPF	1 1
レベルレンジ	3	エンベロープ	1 2
カップリング	4		
ズーム	5		
ウィンドウ	6		
表示設定		送信	
表示単位	7	受信	
工学単位設定	8	ファイル登録	
工学単位使用	9	ファイル呼出	
		キャンセル	
		完了	
		次へ	

分析条件の設定 [2/2]

アベレージ設定		トリガー設定	
アベレージ領域	1 3	トリガースource	2 1
アベレージモード	1 4	トリガーモード	2 2
アベレージ回数	1 5	トリガーレベル	2 3
2次演算機能設定		トリガースロープ	2 4
微・積分モード	1 6	トリガーポイント	2 5
レベルスケール	1 7		
周波数単位	1 8		
メモリ設定		送信	
ストアタイプ	1 9	受信	
開始アドレス	2 0	ファイル登録	
		ファイル呼出	
		キャンセル	
		戻る	
		完了	

項目	説明	対応する本体の操作	取説のページ
1	表示するデータを設定する	ボタン <input type="checkbox"/> SPEC <input type="checkbox"/> TIME <input type="checkbox"/> PDF <input type="checkbox"/> PHASE	1 1
2	サンプリング信号と周波数スパンを設定する	メニュー (1) の FREQ SPAN	3 8
3	レベルレンジを設定する	メニュー (1) の LEVEL RANGE	3 9
4	入力カップリングを設定する	メニュー (1) の COUPLING	4 3
5	FFT ズーム倍率を設定する	メニュー (1) の ZOOM	4 5
6	ウィンドウを設定する	メニュー (1) の WINDOW	4 5
7	スペクトル表示におけるレベルの単位を設定する	メニュー (1) の LEVEL RANGE	3 9
8	工学単位の基準値を設定する	メニュー (1) の OdBEU/1EU	4 1
9	レベル表示に工学単位を用いるかどうかを設定する	メニュー (1) の OdBEU/1EU	4 1
1 0	ハイパスフィルターを設定する	メニュー (1) の HPF/LPF	4 3
1 1	ローパスフィルターを設定する	メニュー (1) の HPF/LPF	4 3
1 2	エンベロープ処理を設定する	メニュー (1) の ENVELOPE	4 4
1 3	平均演算領域を設定する	メニュー (2) の AVERAGE DOMAIN	4 6
1 4	平均演算モードを設定する	メニュー (2) の AVERAGE MODE	4 6
1 5	平均回数を設定する	メニュー (2) の AVERAGE N	4 7
1 6	スペクトルに対する微分・積分を設定する	メニュー (3) の SPEC OPE	5 3
1 7	スペクトル表示のレベルスケールを設定する	メニュー (3) の Y-AXIS	5 4
1 8	スペクトル表示・位相表示の周波数単位を設定する	メニュー (3) の X-AXIS	5 4
1 9	データをストアするときの方法を設定する	メニュー (4) の STORE_TYPE	6 0
2 0	マニュアルストアの開始アドレスを設定する	ボタン ADDRESS <input type="checkbox"/> UP <input type="checkbox"/> DOWN	7 2
2 1	トリガースソースを設定する	メニュー (2) の TRIGGER SOURCE	5 0
2 2	トリガースモードを設定する	メニュー (2) の TRIGGER MODE	5 0
2 5	トリガースレベルを設定する	メニュー (2) の TRIGGER LEVEL	5 1
2 4	トリガースロープを設定する	メニュー (2) の TRIGGER SLOPE	5 1
2 5	トリガースポイントを設定する	メニュー (2) の TRIGGER N	5 1

尚、X 軸および Y 軸の拡大と表示領域移動の機能 (P.28~P.35) は、ソフトウェアでは実装していません。何故なら、Excel によって、これらの機能は十分に補えるからです。